JR篠ノ井線廃線跡の整備に取り組む明科・潮沢区の区長

ロング・インタビュー

蘇（よみがえ）れ！廃線跡地

小林（こばやし） 忠孝（ただたか）さん（68歳・明科東川手）

←「自分たちの地域は、自分たちで守るという思いが今後の地域づくりには必要」と話す小林さん（自宅にて）

市内北東部に位置する明科地域潮沢（うしおさわ）区。国道403号が縦断し、廃線になった旧JR篠ノ井線の跡地を利用したけやきの森公園や接吻道祖神などがあり、自然豊かな山あいの地区です。しかし、区内のほとんどが傾斜地で、大雨が降ると地すべりが起きやすいところでもあります。

そんな環境の中で、自分たちの地域は、自分たちで守るという思いのもと、住民が自ら行動し、さまざまな地域づくり活動をしている潮沢区の区長小林忠孝さんにお話を聞きました。

―住民の皆さんが地域づくりに積極的に取り組んでいますね。

潮沢区は、過疎が進み少子高齢化も進んでいます。昨年の合併で安曇野市となり、大げさに言うと『これを機に何かやらなくては、生き残れない』という思いをみんなが持っていました。

合併前も冬のイルミネーションの点灯や自主防災組織を立ち上げるなど、さまざまな活動に取り組んできましたが、市となり、自分たちの地域をどうしていくのか考えているだけでなく、まず自分たちで、何らかのアクションを起してみようという思いがさらに強くなりました。

合併を機に何かやらなくては生き残れないという思いを持ちました。

「ここに生まれて良かった、住んで良かった」と言われるような里づくりをしたい。

←廃線の沿線にはレンガ造りのトンネルも残る。（旧漆久保（うるしくぼ）トンネル）

―現在、JR篠ノ井線廃線跡の整備を進めているそうですが。

篠ノ井線の複線化に伴い、廃線になって18年。これまでもこの廃線沿いの仮設駅のあった場所と鉄道防備林として植栽されたケヤキがある一帯を「ケヤキの森公園」と名付け、区民がマレットゴルフ場を整備したり、福寿草、桜なども植栽するなど整備してきました。最近では、小石を敷き詰めた線路敷、列車用の信号機など廃線敷の面影が残る跡地がハイキングやバードウォッチィングコースとして紹介されるなど少しずつ注目も集めています。

しかし、全長4キロある廃線敷の中には、まだ手入れができずに雑草木が生い茂り、その上、家庭ごみなどの不法投棄などの問題も起きています。そこで、新たに区民有志で、自然を守りながら環境整備を行うボランティア組織「ケヤキの道」を結成しました。また、県の補助金活用して、線路敷の下草刈りやケヤキ林の間伐などの活動を始めています。

将来は、森林浴やウオーキング、バードウォッチングができる場所にしていこうと話しています。祖先が大切にしてきた自然を守り、引き継いでいくことは、今を生きる私たちの責務だと思います。

―活動の中で苦労していることはありますか。

どこの地域、地区でもそうだと思いますが、これからは行政がやってくれるのを待つのではなく、自分たちがまず行動を起こし、行き詰まったら行政に相談してみるという行動力が大切になると思います。行政もそういう活動を実践しているところには、一緒に考え、知恵を出し、応援してくれると思います。「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いが、今後の地域づくりでは必要なことだと思います。区長は、区の代表ですが、私一人では、こうした活動はできません。副区長をはじめ、区民の後押しや協力があって、区を挙げて取り組むことができていると思います。

―今後の抱負について教えてください。

区民だけでなく、ここを訪れた人たちにも活動に参加してもらえるよう工夫しながら取り組みを続け、いずれは市民の憩いと交流の場、新たな安曇野の観光スポットとして定着すればいいと思います。そして、「ここに生まれて良かった」「ここに住んで良かった」と区民に言われるような里づくり、地域づくりをしていきたいと思います。